

領 域	専門分野Ⅱ（母性看護学）	開講時期	2年前期
科 目 名	母性看護学概論	単 位 数 (時間数)	1単位（15時間）
講 師 (所属・職位等・実務経験)	平川 真紀（別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・助産師16年）		
<p><科目目標></p> <p>母性の概念、母性の身体的・精神的・社会的特徴、母子保健の動向、母性看護と法律及び女性の各ライフステージにおける看護の概要を理解する。</p> <p><内容></p>			
回	授業内容	授業方法	
1	1. 対象理解の基盤となる概念 1) 母性、父性、親性 2) 母親役割、父親役割 3) 母子相互作用 4) 早期の母子接触 5) 家族の発達・機能	講義	
2	2. リプロダクティブ・ヘルスに関する概念 1) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 2) 性（セクシュアリティ） 3) セックス、ジェンダー 4) 性の多様性（性同一性障害等） 3. 看護の基盤となる概念 1) エンパワメント 2) ヘルスプロモーション・ウェルネス 3) セルフケア 4) 女性・家族を中心としたケア	講義	
3	4. 妊産婦・乳幼児を守る法律 1) 母子保健法 5. 女性の就労に関する法律 1) 労働基準法 2) 雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律 3) 育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律 6. 母性看護に関する法律 1) 母体保護法 2) 戸籍法 3) 死産の届出に関する規程	講義	
4	7. 子育て支援施策 1) 健やか親子21 2) 健やか親子21(第2次) 3) 少子化対策の歩み 8. 母子保健に関する主な統計 1) 人口動態 (1) 出生の動向（出生率、合計特殊出生率等） (2) 死亡の動向（死産率、周産期死亡率、妊産婦死亡率、乳児死亡率等） (3) 婚姻の動向	講義	
5～6	9. リプロダクティブ・ヘルスに関する倫理 1) 自己決定の尊重 2) 人工妊娠中絶と倫理的課題 3) 生殖補助医療と倫理的課題 4) 出生前診断と倫理的課題 10. ウィメンズヘルスに関する看護の理解 女性のライフサイクル各期における看護 (思春期・成熟期・更年期・老年期女性の健康と看護)	講義	
【課題】女性のライフサイクル各期における看護をまとめ、提出する。			
7～8	11. 性暴力を受けた女性に対する看護 12. 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法） 13. 国際化社会と看護 14. 災害時の母子支援 15. 周産期医療・生殖医療におけるチーム医療	講義	

授業の進め方

視聴覚教材、VTR 等を使用しながら講義を進める。母子保健法に関しては、母子健康手帳と照らし合わせながらグループワークを行えるように支援する。倫理的課題に関しては、事例を用いて、ディスカッションし、自己の意見を述べることができるように支援する。

テキスト

1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[1] 母性看護学概論 (医学書院)
2. 国民衛生の動向 2021/2022 (厚生統計協会)

評価方法

筆記試験、レポート、出席状況により総合的に評価する。

領 域	専門分野Ⅱ（母性看護学）	開講時期	2年前期
科 目 名 (単元名)	母性看護方法論Ⅰ	単 位 数 (時間数)	1 単位(30 時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	① (別府医療センター・産婦人科医師) ②宮原 有佳子(別府医療センター・助産師 12 年) ③野中 智恵 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・助産師 17 年) ④岡部 裕美 (別府医療センター・助産師 32 年) ⑤加藤 元美 (別府医療センター・助産師 29 年)		

<科目目標>

妊娠・分娩・産褥の正常経過と正常経過をたどる妊産褥婦の看護を理解する。

<内容>

回	内容	授業方法	担当講師
1・2	1. 生殖生理と妊娠・分娩・産褥の経過 1) 正常妊娠 (1) 妊娠の生理 i. 妊娠の定義 ii. 妊娠の成立 iii. 胎盤の形成 (2) 妊娠とその診断 (3) 妊娠期に行う検査と目的 (4) 胎児の発育と生理 i. 胎児の発育 (胎芽期、胎児期) ii. 胎盤と羊水の生理(胎盤の構造、羊水の機能) iii. 胎児の生理(血液・循環器・呼吸器・消化器・腎臓系) iv. 胎児と薬剤・放射線・環境汚染物質 (ヒトの形態発生と臨界期) (5) 胎児の発育と健康状態の診断 i. 胎児発育の評価法(超音波検査) ii. 胎児の触知、胎位・胎向の診断 (レオポルド触診法、胎位・胎向の診断) iii. 胎児の健康状態 a. 超音波断層法 b. 胎児心拍数陣痛図 c. BPS (biophysical profile score) d. 胎児末梢血検査(pH 等) (6) 妊婦と胎児の経過の診断とアセスメント i. 妊娠経過の診断(妊婦健康診査) ii. 基礎的情報のアセスメント iii. 妊婦・胎児の身体的健康状態のアセスメント iv. 日常生活に関するアセスメント	講義	①
3～5	2) 正常分娩 (1) 分娩の要素 i. 分娩の区分(流産・早産・正期産・過期産) ii. 分娩の経過の分類(第1期～第4期) iii. 分娩の3要素(娩出力、産道、娩出物) iv. 胎児と子宮および骨盤との関係 v. 分娩の機序(胎児の産道通過機序、胎盤剥離、娩出機序) (2) 分娩の経過 i. 分娩の進行と産婦の身体的変化 分娩の前兆、分娩第1期～第4期	講義	①

回	内容	授業方法	担当講師
3～ 5	<ul style="list-style-type: none"> ii. 産婦の身体的変化 iii. 産痛の機序 iv. 胎児に及ぼす影響 <ul style="list-style-type: none"> 胎児心拍数モニタリング、産瘤 (3)産婦・胎児、家族のアセスメント <ul style="list-style-type: none"> i. 産婦と胎児の健康状態のアセスメント <ul style="list-style-type: none"> a. 基礎的情報の収集 b. 分娩経過のアセスメント <ul style="list-style-type: none"> ①陣痛測定方法 ②分娩進行状態の観察 ③聴診による情報収集④連続的胎児心拍数モニタリング 3)正常産褥 <ul style="list-style-type: none"> (1)産褥期の身体的変化 i. 産褥の定義 ii. 子宮の復古と悪露 iii. 乳汁分泌 iv. 月経の発来 v. 全身の変化 (2)産褥期の心理・社会的変化 (3)産褥経過の診断 <ul style="list-style-type: none"> i. 退行性変化 ii. 進行性変化 iii. その他の症状（発熱、下腹部痛、外陰部痛） (4)褥婦の健康状態のアセスメント <ul style="list-style-type: none"> i. 基礎的情報 ii. 褥婦の身体の状態 		
6～ 8	<ul style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期の看護 <ul style="list-style-type: none"> 1)妊婦の理解 <ul style="list-style-type: none"> (1)妊娠による身体の変化 (2)妊娠による心理・社会的変化 2)妊婦が受ける母子保健サービス <ul style="list-style-type: none"> (1)妊娠の届出と母子健康手帳の交付 (2)健康診査 (3)保健指導の目的・方法 3)妊婦の保健相談の実際 <ul style="list-style-type: none"> (1)妊娠中の食生活 (2)排泄 (3)清潔 (4)妊娠中の衣生活 (5)活動と休息 (6)妊婦の勤労 (7)妊娠中の性生活 (8)妊娠中のマイナートラブル 4)親になるための準備教育 <ul style="list-style-type: none"> (1)分娩準備教育 (2)育児準備のための保健相談 (3)家族役割調整のための保健相談 	講義	②
9	<ul style="list-style-type: none"> 2. 妊婦の看護・保健指導に必要な技術 <ul style="list-style-type: none"> 1)腹囲、子宮底長測定 2)レオポルド触診法 	講義 演習	③
10 ～ 12	<ul style="list-style-type: none"> 3. 分娩期の看護 <ul style="list-style-type: none"> 1)産婦の理解 <ul style="list-style-type: none"> (1)産婦の身体の変化 (2)産婦と家族の心理・社会的変化 2)看護目標と産婦のニード 3)安全分娩への看護 4)安楽な分娩への看護 5)出産体験が肯定的になるための看護 6)基本的ニードに関する看護 <ul style="list-style-type: none"> (1)水分・栄養・排泄・清潔・睡眠・休息のニードの充足 7)家族発達を促す看護 8)分娩期の看護の実際 (1)分娩第1期の看護 (2)分娩第2期の看護 (3)分娩第3・4期の看護 	講義	④
13	<ul style="list-style-type: none"> 2. 産婦の看護に必要な指導・技術 <ul style="list-style-type: none"> 1)呼吸法、リラックス法、マッサージ法 3. 胎児付属物の観察、計測 	講義 演習	③

回	授業内容	授業方法	担当講師
14 15	3. 産褥期の看護 1) 褥婦の理解 (1) 褥婦の身体の変化 (2) 褥婦と家族の心理・社会的変化 2) 身体機能の回復および進行性変化への看護 (1) 褥婦のセルフケアの不足に対する看護 i. 休息と活動 ii. 栄養、排泄、清潔 iii. 乳房ケア iv. 産後経験する疼痛への対処 (2) セルフケア能力を高める看護 3) 児との関係確立への看護 (1) 児との対面 (2) 愛着形成 4) 育児にかかわる看護 (1) 児の栄養（授乳） (2) 児の清潔 (3) 児の健康管理 5) 家族関係再構築への看護 6) 育児不安と育児支援 7) 職場復帰	講義	⑤
<p>授業の進め方</p> <p>主に講義で進めていく。分娩、妊娠、産褥において視聴覚教材、VTR も含めながら講義を進めていく。妊娠期では、腹囲、子宮底長測定、レオポルド触診法の演習を行う。分娩期では、産婦の看護に必要な指導・技術を行う。</p>			
<p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2]母性看護学各論(医学書院)①②③④⑤ 2. 病気がみえる Vol.10 産科(メディックメディア)①②④⑤ 3. 根拠と事故防止からみた母性看護技術(医学書院):③ 			
<p>評価方法</p> <p>筆記試験</p>			

領 域	専門分野Ⅱ（母性看護学）	開講時期	2年前期
科 目 名 （单元名）	母性看護方法論Ⅱ	単 位 数 （時間数）	1 単位(30 時間)
講 師 <small>（所属・職位等・実務経験）</small>	① （別府医療センター・産婦人科医師） ②木村 聡美（別府医療センター・助産師13年） ③宮崎 恵子（別府医療センター・新生児集中ケア認定看護師・看護師32年）		
<科目目標> 妊娠・分娩・産褥期の異常経過と、異常経過をたどる妊産褥婦の看護を理解する。さらに新生児の異常の看護について理解する。			
<内容>			
回	授業内容	授業方法	担当講師
1・2	1. 妊娠・分娩・産褥期の異常 1) 異常妊娠の病態と検査・治療 (1) ハイリスク妊娠 i. 生活習慣、心理的・社会的因子、体格による影響(高年妊娠、若年妊娠等) ii. 合併する全身疾患（糖尿病、妊娠糖尿病、妊娠貧血等） (2) 妊娠期の感染症 (3) 妊娠疾患（妊娠悪阻、妊娠高血圧症候群、血液型不適合妊娠） (4) 多胎妊娠 (5) 妊娠持続期間の異常（不育症、流産、早産・切迫早産） (6) 異所性妊娠	講義	①
3・4	2) 異常分娩の病態生理と治療・処置 (1) 産道の異常 i. 骨産道、軟産道の異常 (2) 娩出力の異常 i. 陣痛の異常 a. 微弱陣痛 b. 過強陣痛 (3) 胎児の異常による分娩障害 (4) 胎児の付属物の異常 i. 胎盤の異常（前置胎盤、常位胎盤早期剥離等） ii. 臍帯の異常 iii. 卵膜の異常（前期破水等） iv. 羊水の異常 (5) 胎児機能不全 (6) 分娩時の損傷 (7) 分娩第3期および分娩直後の異常 i. 胎盤の娩出遅延(胎盤剥離徴候) ii. 子宮の異常（子宮弛緩症） (8) 分娩時異常出血 (9) 産科処置と産科手術 i. 分娩誘発 ii. 会陰切開 iii. 帝王切開	講義	①
5	3) 異常産褥の病態生理と治療・処置 (1) 子宮復古不全 (2) 産褥期の発熱（産褥熱、泌尿器感染症 尿路感染、排尿障害、乳腺炎等） (3) 産褥血栓症 (4) 精神障害(マタニティブルー、産後うつ病)	講義	①
6	4) 遺伝相談、出生前診断 (1) 遺伝相談とは (2) 出生前診断 (3) 出生前診断の実際 出生前診断の適応、検査方法、診断方法 (4) 着床前診断	講義	①

回	授業内容	授業方法	担当講師
7	5) 不妊検査・治療 (1) 不妊症とその原因 (2) 不妊検査、不妊治療	講義	①
8～10	1. 妊娠の異常の看護 1) ハイリスク妊婦の看護 (1) 高年妊婦 (2) 若年妊婦 (3) 肥満・過剰体重増妊婦 (4) ART 後の妊婦 2) 合併症を有する妊婦の看護 (1) 心疾患 (2) 糖尿病 (3) 子宮筋腫 3) 妊娠高血圧症候群妊婦の看護 4) 切迫流・早産の妊婦の看護 5) 妊娠期の感染症の看護 (6) 妊娠悪阻の看護	講義	②
11・12	2. 分娩の異常の看護 1) 破水が生じた産婦の看護 2) 分娩遷延のリスクのある産婦の看護 3) 胎児機能不全を生じるリスクのある産婦の看護 4) 前置胎盤のある産婦の看護 5) 常位胎盤早期剥離時の看護 6) 帝王切開術を受ける産婦の看護 7) 分娩時異常出血のある産婦の看護 (1) 弛緩出血を生じた産婦の看護 (2) 頸管裂傷を生じた産婦の看護 (3) 会陰裂傷を生じた産婦、会陰切開を行った産婦の看護	講義	②
13・14	3. 産褥期の異常の看護 1) 子宮復古不全の看護 (2) 産褥期の発熱の看護	講義	②
15	4. 異常を持つ新生児の看護 1) 新生児仮死の看護 (2) 新生児低血糖症の看護 3) 新生児一過性多呼吸 (TTN)・胎便吸引症候群(MAS)の看護 4) 分娩外傷の看護 (5) 新生児ビタミンK 欠乏症の看護	講義	③
<p>授業の進め方</p> <p>視聴覚教材、VTR 等を用いて講義を進める。学生の理解を深めるために、妊娠・分娩・産褥・新生児の事例を含めながら説明していく。</p>			
<p>テキスト</p> <p>1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論(医学書院)①②③ 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [9] 女性生殖器(医学書院)① 3. 病気がみえる Vol.10 産科(メディックメディア)①②③ 4. 病気がみえる Vol.9 婦人科・乳腺外科 第3版(メディックメディア)①</p>			
<p>評価方法</p> <p>筆記試験</p>			

領 域	専門分野Ⅱ（母性看護学）	開講時期	2年後期
科 目 名 （单元名）	母性看護方法論演習	単 位 数 （時間数）	1 単位（30 時間）
講 師 （所属・職位等・実務経験）	①古賀 寛史（別府医療センター・小児科医長） ②宮崎 恵子（別府医療センター・新生児集中ケア認定看護師・看護師 32 年） ③野中 智恵（別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・助産師 17 年）		
<科目目標> 新生児の経過、看護について理解する。さらに、妊産褥婦と新生児の看護を展開し、妊産褥婦のセルフケア能力に応じた援助を身につける。			
<内容>			
回	授業内容	授業方法	担当講師
1	1. 新生児の生理の理解 1) 新生児の生理 (1) 新生児の定義 (2) 新生児の機能 i. 子宮外適応現象 ii. 新生児の呼吸・循環・体温・消化と吸収 iii. ビリルビン代謝と生理的黄疸 iv. 水電解質代謝・腎機能 v. 新生児の免疫・皮膚・反射・感覚機能 (3) 新生児のアセスメント i. 新生児の診断 a. 出生直後の評価、発育、奇形、黄疸の評価 新生児マススクリーニング ii. 新生児の健康状態のアセスメント a. バイタルサイン測定、身体計測、全身の観察（フィジカルアセスメント）	講義	①
2	2. 新生児の看護 1) 出生直後の看護 2) 出生後から退院時までの看護 (1) 退院までの経過観察と看護 (2) 新生児の栄養 (3) 新生児と医療事故、医療安全、感染予防 3) 生後 1 ヶ月健康診査に向けた退院時の看護 (1) 退院診察 (2) 児が順調に育っていくための環境づくり 3. ハイリスク新生児の看護（低出生体重児の看護） 1) 胎外生活への適応の促進 (1) 体温の調整 (2) 呼吸の調整（呼吸窮迫症候群：RDS） (3) 循環の調整 (4) 水分・電解質バランスの調整 (5) 低血糖の予防 (6) 栄養 (7) 感染予防 2) 成長・発達の促進 (1) 姿勢保持と相互作用の促進（ポジショニング・ホールディング、タッチケア、カンガルーケア） (2) 環境の調整（音環境、光環境、新生児集中治療室） (3) 継続支援 3) 家族への看護	講義	②

回	授業内容	授業方法	担当講師
2	4. 高ビリルビン血症の看護 1) 光線療法を行う児の看護 2) 家族への看護		
3 4 5	5. 褥婦、新生児の看護に必要な技術 1) 沐浴 2) 新生児計測	講義 演習	③
6	1. 母性看護過程展開 1) ヘルスプロモーション型看護診断	講義 演習	③
7	2. 母性看護過程展開演習 妊娠期の分析	講義 演習	③
8	3. 母性看護過程展開演習 分娩期の分析	講義 演習	③
9 10	4. 母性看護過程展開演習 産褥期の分析	講義 演習	③
11	4. 母性看護過程展開演習 新生児の分析	講義 演習	③
12	5. 母性看護過程展開 関連図、看護診断	講義 演習	③
13	6. 母性看護過程展開 介入計画立案	講義 演習	③
14 15	7. 褥婦のセルフケアを促進する援助の実施・評価	講義 演習	③

授業の進め方

新生児の経過、新生児の看護を教授した後、沐浴、新生児計測の演習を行う。沐浴に関しては、演習後、技術チェックを行い、技術の習得状況を確認する。ヘルスプロモーション型看護診断を学ぶことは、新学習であるため、ヘルスプロモーション型看護診断とは何かを説明する。さらに、事例を通して、褥婦の退行性・進行性変化、心理状態、母親役割、家族関係、社会/生活環境が理解できるように進めていく。母親だけでなく母児一体で考えることができるように支援していく。さらに、褥婦のセルフケアを促進する援助を実践する。

テキスト

1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [1] 母性看護学概論(医学書院):③
2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論(医学書院):①②③
3. 根拠と事故防止からみた母性看護技術(医学書院):③
4. ウエルネスからみた母性看護過程+病態関連図(医学書院):③
5. 看護診断ハンドブック 第11版:③
6. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論(医学書院):②
7. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論(医学書院):②

評価方法

筆記試験、レポート、技術確認、授業態度により総合的に評価する。